

Pickup!① また一つ、対馬の可能性が広がりました

7月12日、中国上海市崇明^{すうめいけん}県において、同県と対馬市との友好関係覚書締結式が行われ、^{ザオウチー}趙奇^{チー}県長と財部市長が協定書に調印しました。

上海市崇明県は、長江河口に浮かぶ中国で3番目に大きな島である崇明島を中心とした人口およそ70万人の都市。今後、人的交流や文化交流・経済交流を深めていく予定です。



新タウンページ&市民便利帳、 かわいいイラストとともにご家庭へ

NTTタウンページ(株)(7月1日、NTT番号情報(株)から社名変更)のご協力により完成した市民便利帳(タウンページ内に掲載)が、各家庭及び事業所に配布されています。一番身近なところで市民の皆様と市役所を繋ぐ手助けとなってくれることでしょう。

イラストを作成した
対馬市島おこし協働隊島デザイナー：松野由起子さん



Pickup!②

Pickup!③ 「島の瞳」ブルーベリーアイス 福岡でも大好評!!



KBCラジオ「9チカラ」において
“つしまチカラ” 放送中!!
(毎月第3木曜日 10:35~10:40)

7月21日、福岡市天神で、KBCラジオ長崎フェスタが行われ、対馬の夏のイベント「厳原港まつり対馬アリラン祭」「ちんぐ音楽祭」を電波に乗せてPRしました。会場には、先月の広報つしまで紹介した「ブルーベリーアイス」も登場。用意した200個が完売するなど大好評を博しました。

第30回長崎県漁協青壮年部意見発表大会 最優秀賞

海が大好きだから...

上対馬町漁協青壮年部 向井拓也

私は対馬に生まれ漁師の子として育ち、海が大好きだから漁師になりました。

海は『美しい』みなさんも海を眺め、心が癒された経験は多々あるのではないのでしょうか？水平線から昇る太陽と照らされる海、そして、一日を終え沈んでゆく夕日に染まる美しい大地と海。あれはたまらないくらいの感動です。

しかし、私達漁師は常に危険と隣り合わせです。一つ間違えれば死を覚悟しなければなりません。穏やかな海でも風が吹けば顔色を一変させる。そんな自然の脅威を見せつけられた出来事が昨年起こってしまいました。

これまで、青壮年部活動を共に頑張ってきた仲間が相次いで海難事故に会い、行方不明となってしまいました。

その日は確かに時化していた。時化していたけどあの人は泳ぎも得意だし、きっと、必ずどこかで助けを待っている、どうか見つけてほしい！見つけてやる！そんな思いでいっぱいでした。しかし、家族や私たち仲間の思いも空しく時は過ぎ、事故から5日後述べ数千人にも及んだ捜索は打ち切れ、残念ながら仲間を発見することはできませんでした。彼らは、ライフジャケットを着用してなかったのです。ライフジャケットさえ着用していたらと思うと。

ライフジャケットは命綱である！そのことを忘れてはならない。仲間の事故は本当につらく、悲しいものだから。なぜ、ライフジャケットを着用しないといけないか？それはまず、自分の命を守ること、そして何よりも発見されることが第一で、大切な家族・仲間を悲しませないためにライフジャケットを必ず着用しないといけないのです。そして、事故を未然に防ぐには家族や仲間の、「気をつけてね！無事に帰ってきてね！」その一言、その思いが大切です。そのためにもライフジャケットの着用を私たち青壮年部が率先して推進していかなければなりません。

また、自然の脅威といえば、海難事故だけではなくありません。忘れられない、いや忘れてはならない未曾有の大災害。東日本大震災。一瞬のうちに人々の命を、家を、そして幸せを、ありとあらゆるものを奪っていった大津波。私はテレビから流れる、あまりにもひどい惨劇をただただ呆然と見ていました。映像は今でも鮮明に焼きついています。その被災地では漁業も大きな被害を受けました。船をなくし、漁に行けず、また船はあっても漁具がない。同じ漁師として本当に胸が痛くなる思いです。そしてその思いは部員みな同じでした。そんな時、私たち青壮年部で『震災の被災者を支援する鮮魚販売会』をやるとういう声が次々に上がりました。各部員やOBが漁獲した鮮魚を持ち寄り、売り上げ、募金の全てを寄付しようと、部員全員が積極的に参加しました。

漁を休まずに普段通りに漁を行い、売り上げだけを寄付すればよいと考える方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、魚を買って、食べて頂いた皆様の『美味しい』が義援金となり、活力と同時に被災地に届けることができるとい、部員達の強い思いから始まった活動でした。そして、多くの対馬市民の方々に賛同を頂き、これまでに3度の義援金活動を行いました。

そのような中、この活動を通して、心を強く打たれた出来事があります。それは、岩手県立宮古水産高校の生徒たちの事です。彼らは校舎や実習船が被災するなど、苦境の中に立たされたにもかかわらず、自分たちが漁師になり、東北を、海を復興させようと、夢を描いていると言うのです。海を愛する者同志、これからも彼らを応援していきたいと思えます。

さて、これから漁師になりたいと願う方々のためにも、私たちはこの豊かな海を後世に残さなければなりません。そこで私たち青壮年部は対馬市と一緒に海洋保護区制定に向けた取り組みに力を入れています。対馬近海は様々な恵みを特別に受けてきた海域です。対馬暖流は、多くの回遊魚の一生の支えであり、ツシマヤマネコをはじめとした多様な生物を育む雄大な山々、そこから湧き出る栄養満点の水は急流を伝い、海へと流れ、あまたの生き物たちを支えてきました。しかし、昨今、水産資源の減少は著しく、今こそ我々漁業者は今後の漁業の在り方を真剣に考え、行動する時がきたのではないのでしょうか。

漁船は高速化し、装備された計器類は超高性能となり、現在の漁業には不可欠な物となりましたが、それがあだとなり乱獲とも言えるような漁業を続けてきました。その結果、再生と漁獲量のバランスが崩れ、著しい資源の減少を招いています。持続的な漁業を続けるには、徹底した水産資源の管理と環境保全に取り組みないと、残された限りある資源が必ず底をついてしまうと思います。特に、対馬周辺を回遊する魚については日本各地やアジア沿岸地域も回遊します。だからこそ、今、私たちが先頭に立ち、海の生態系を守りながら、丁寧に水産資源を利用していかなければなりません。そのためにも、私たち対馬の漁師だけではなく日本中、いや世界中のすべての漁業関係者が協力し合い、資源管理に取り組んでいかなければならないと思います。そのような意味からも対馬に海洋保護区を制定し、資源管理型漁業のさきがけとなる事を目指しています。

私たち漁師は、ただ偏に、自然の恩恵を受け、生きています。地球的バランスの中で生かされているのです。だからこそ、対馬のような本当に恵まれた自然と豊かな環境の中で、漁業を営み生活することに心から感謝し、限りある資源を守っていく責任、義務があります。

最後に、私たち青壮年部が、これまで以上に一丸となり、島の明るい未来を築き、次の世代への道標となるような漁業を対馬から発信する事に、一層努力していきたいと強く思っています。

私は、海が大好きだから・・・

